

# ともに祈ろう

— 明日の笑顔のために —

全国の神社では感染症の早期の終息を願い、祈りがささげられています。

このような国難の時こそ、一人ひとりが、ともに祈り、苦難の日々を分かち合っていくことが大切です。私たちは、祈ることで、医療従事者の方々をはじめ尽力をされているみなさんの気持ちに寄り添い、連帯できます。

早期の終息を願う「祈り」の心。「祈り」が変えるものは、“私”であり、“行動”でもあります。「祈り」の心は、私たちの明日の笑顔につながります。



## 疫病と天皇の祈り

『日本書紀』には、第10代崇神天皇すじんてんのうの御代に疫病が流行り、国民の半数以上が亡くなる中、天皇は朝も夜も神様への祈りをささげ、ご神意により大物主神おおものぬしのかみをまつらせ、すべての神々をおまつりしたところ、疫病は治まったことが記されています。崇神天皇は、いつの時も、「国が栄え民が幸せに暮らすこと」を願ってこられました。崇神天皇の思いは、現在も受け継がれ、宮中をはじめ全国の神社で祈りがささげられています。